1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071700571		
法人名	有限会社グループホームみんなの家		
事業所名	グループホームみんなの家		
所在地	福岡県直方市大字上頓野3635-1 (電話) 0949-26-6808		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 30 日	評価結果確定日	令和 4 年 3 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中、認知症の人がゆっくりと自由に生活できるよう支援している。そのため、職員に対しては本人の立場に立って考えて声をかけてもらっている。
施設の中に閉じこもらないように可能な限り外に出ていただくようにしている。認知症の人にとってストレスを感じさせないように安全面に配慮しつつ自由に生活してもらっている
全部屋ではないが、介護ロボット（離床センサー）を導入し居室でのベッドでの事故防止に努めている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www. kai gokensaku. jp/
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 24 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

里山に立地した静かな環境に事業所があり、スタッフ同士も仲が良く、利用者を中心にお互いが連携し、協力する姿が見られる。ホームで提供される食事は、地元の食材を吟味して作られており、家庭の味を楽しむことが出来る。職員の技術とAIの利点をマッチングさせた取り組みが行われ、ヒューマンエラーをなくすため呼吸、脈拍、無体動をリモートで把握しながら、人権に配慮して利用者の部屋内での動きが見守れるシステムを導入している。利用者の側に立ったより良い介護を常に求める姿勢が見られる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティングの時に理念を職員間で読み合わせ把握して業務に入っている。	毎朝ミーティング時に、理念を職員間で読み合わせを行い、一日の取り組みと反省を行っている。理念に基づいて利用者へ接し、やさしく丁寧な支援を心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の方との関わりがかなり減っている。中でも事業所の畑で作業をしている時に声をかけてもらったりしている。おやつ用の焼き芋を作った時は地域の方へお裾分けをしている。先日自治会長さんからチューリップの球根を頂いた。	地域とは良好な関係を築いている。近隣住民からチューリップの球根や農作物のおすそ分け、苗の提供が日常的に行われている。住民との窓越しの会話や池の清掃等の地域行事への参加を通して、地域の一員として交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で運営推進会議も書面での開催になっていて認知症の人の理解など地域に向けた発信が出来ていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での開催になっている為、構成メンバーからの意見は頂いてない。(書面で意見があれば連絡をくださいと記載しているが)	運営推進会議には、行政や地域包括支援センター、他施設職員、町内会役員、民生委員等で構成されている。コロナ禍であっても管理者が委員の自宅や行政窓口へ直接書面を携えて訪問し、意見を聞いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	郵送でも構わない書類があっても足を運んで提出して、顔の見える関係を作る努力をしている。	行政の窓口には、必ず出向いて事業所の現状や課題等を報告している。些細なことでも、担当者との顔を合わせることで、関係性が良好に続くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	書面での運営推進会議の書類に身体拘束をしていないことの報告をしている。身体拘束の勉強会も事業所内で行っている。玄関の鍵は夜間以外はかけていない。	日中、居室や玄関は施錠せず、職員は利用者の外出傾向を把握し、職員は常に利用者寄り添い、見守りを行っている。近隣住民への理解を求め、声かけや連絡をしてもらえる関係を構築している。職員は常に利用者寄り添い、見守りを行っている。支援困難事例を取り上げての内部研修がなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年に一回勉強会職場内で勉強会をしている。介助中に大きな声を出さず入居者もいるが、職員が感情的にならないように、介助していない職員が声をかけに行くようにしている。声を出している入居者も他の職員の顔を見ることで安心感が出ている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、職場内研修で実施している。現在制度を必要としている入居者はいない。	権利擁護に関する制度に関して、利用者や家族等に契約時に説明している。権利擁護に関するテキストやパンフレットを使用して、内部研修が行われており、記録が残されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明している。説明後分からない点はありませんか？と確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族の会の開催も出来ていないが、個別で家族の面会のタイミングで感染対策をしつつも意見や要望をうかがっている。面会制限についての意見が多く、制限緩和をしていたが今回のオミクロン株でまた、制限をしている状況。	運営推進会議後に茶話会を開き、くつろいだ雰囲気の中で、利用者・家族を含めた委員との話し合いの場が設けられている。家族から、利用者と職員と一緒に撮影した写真を園便りに載せてほしいとの要望や、家族間で交流したいとの意見があり、公民館で家族同士の情報交換や関係づくりの機会を設ける等、より良い運営に繋がっている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で一人ひとり意図的に話をする機会を設けている。	職員会議で職員全員が発言しやすい雰囲気を管理者が作りだしている。利用者の靴の取り違えを防止するために、利用者一人ひとりに専用の靴入れを用意して改善する等職員からの提案を反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の都合に合わせた勤務時間を可能な範囲で調整している。今は人員がギリギリの為、職員に負担をかけてしまっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用要件は特に設定していない。 働いている職員に対しても、業務以外の面では厳しくすることなく一社会人として笑顔で働けるよう配慮している。	定年は定めているが、希望に応じて継続して働くことができる。職員の要望に応じて勤務シフトを変更したりしている。職員の介護職員実務者研修参加への援助、資格取得者への手当もある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1回職場内研修で人権について考える機会を設けている。新しく入職した職員がいる場合も入職時に研修をしている。	人権研修の資料を用意して、内部での研修を実施している。勤務で参加できない職員には伝達を行っている。新任研修においても、人権についての研修を実施している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修はストップしているが職員会議のタイミングで職場内研修を行っている。職員が入居者に振り回されている場面があれば、その状況を解決できるようなテーマを考え実施している。現場で気づいた際はその都度入居者の視点に立って考えさせる助言をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍前は出来ていたが今は全くできていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と過ごす時間を増やしコミュニケーションを密にとる努力をしている。何か積極的に話をするというよりはさりげなくそばに寄り添い安心してもらうようにしている。表情にも気を付け本人の反応を職員間で共有している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して不安なことや要望など、時間をかけて聞くようにしている。本人からの笑顔を引き出すことで家族にも安心してもらえるよう配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で、本人家族としては伝えにくいという気持ちを考え、何でも話してほしいということ、また、できないことはできないと伝えさせてもらう事を伝えている。医療的な面は弱いのでかかりつけ医と連携を取りながら家族に安心してもらえるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ立場で対等であることを意識して、一緒に活動することを職員にはお願いしている。洗濯物たたみや食事の準備、掃除など出来る事は何でも職員と一緒にしてもらっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会や一時帰宅はなかなかできておらず。家族との関係が途切れないように感染状況に応じて面会方法は工夫した。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか出来てないが、ドライブしながら自宅の畑の様子を見に連れて行き、感染対策をしつつ家族と会う機会を設けた。	職員は、利用者の性格や生活歴を把握して、利用者が自宅や畑を見たい時には、車で一緒に行ったり、家族との会話もできるように配慮している。利用者の友人知人に利用者の面会をしてもらう等、地域との関係継続を支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	畳のスペースに座れない方でも、和室にてソファや椅子で過ごしてもらい孤独を感じさせないように配慮している。また、ぼつんと一人で座っている場合は声をかけみんなの過ごしている場所へ移動してもらっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要となり退居された方に関してはコロナ禍でもあり気になるころではあるが会いに行けてないのが現状。退去後も残された家族が時々来園され自宅で作った野菜をおすそ分けしてくれその時に少しお話をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思っていることや感じていることを聞いたり推測して支援している。なんでも言い合えるような関係性を作れるよう関わっている。本人の意向を大切に無理強いしないようにしている。	職員は、利用者の表情やしぐさを注意深くみて、どのような支援が適切なのかを利用者自身の気持ちを想像しながら考えて支援している。利用者だけでなく、家族からも意向等を聞き取り、支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人家族、ケアマネから情報収集している。また、家族ともこまめに話をし信頼関係を築き、いろんな情報を職員間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事出来ないことを把握して出来る事は維持できるように、できないこともどのような手伝いをすればどこまでできるのか？考えながら支援している。過剰に手を出すことはひかえている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的に無理な内容の計画は作っていない。担当職員にモニタリングしてもらい現状の状態を把握し計画が適切であるか、職員会議の場で話し合いをしている。また、本人家族へも話をしながら計画を作成している。	月1回の職員会議の際にモニタリングを実施している。利用者一人ひとりの心身の状況を把握し、利用者自身でできるかできないかを観察して、支援方法を検討している。課題分析表を作成し、今後の支援内容について優先順位をつけている。家族に計画案を郵送し、家族からの意見も踏まえて作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前、午後と本人の様子やいつもと違うことがあれば記録している。歩行練習が難しくなった方への足の運動などみんなで話し合い本人が頑張れる方法を考えている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて型にはまらず、外に出て外食などしていたが、今はコロナ禍で出来てない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で感染を恐れ外出による支援はほとんどできてない。市内一斉清掃などは職員だけで参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り入居前のかかりつけ医を継続している。基本2週間に一回訪問診療という形で医療を受けている。状態が変わった時は、かかりつけ医に相談している。	入所前からの医師をかかりつけにしている利用者もあり、その病院も含めて、全て往診対応になっている。耳鼻咽喉科等の他科受診の際は、管理者が同行しており、家族が病院で合流して受診することもある。職員のみが同行した際は、受診後に家族へ結果を報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の異変に気付いた時は事業所看護師に報告している。不在時すぐに連絡を入れ維持を受けたり様子を見に来てもらっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必ず付き添いをして必要な情報を病院へ伝えている。 こまめに面会に行きたいがコロナ禍で面会制限がありなかなか病院とのやり取りができず、病院側からの連絡を待つのみとなっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・看取りの同意書を交わしている。また、重度化した時に再度今後について話し合う場を設けている。医療行為に関しては職員として看護師はいるが難しいこともあると伝えている。また、かかりつけ医とも連携して必要な場合は医療保険を使つての訪問看護を導入することもある。	看取りについては、契約時と看取り期に入った頃に家族へ支援方法について話し合い、同意を得ている。看取りの際には、家族との時間を大切にするため、家族が居室で夜間も一緒に過ごせるように配慮したり、家族がいない時は、利用者を孤独にしないように居間に布団を用意して職員や他の利用者と共に過ごせるようにしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在、時々失神して意識を失う方がいるが、かかりつけ医と相談し、マニュアルを作成した。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練とは別に、大雨・土砂災害を想定とした避難訓練を行っている。今年度は図上訓練で行った。火災を想定とした避難訓練は地域の方の協力も得ていたが、コロナ禍で地域の方へ声をかけるのを中止している。	災害訓練は年2回、夜間想定を含めて実施しており、その他に図上訓練も行っている。地域住民には、コロナ禍のため今年の参加の声掛けはしていないものの、ホームにあるサイレンが鳴ったら地域住民が駆けつけてくれるよう申し合わせをしている。土砂災害を想定した、図上訓練では避難場所までの経路や持ち出し物品等の確認を行った。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を把握したうえで本人の誇りを傷つけないよう声のかけ方を変えている。排泄や入浴、更衣といった場面で扉やカーテンを使って他の人から見えないように配慮している。また、介助中に配慮が足りない場面を発見した時は他の職員が声掛けしてプライバシーの確保に努めている。	入浴は利用者が一人ずつ入れるようにしており、同性介助を行っている。失禁されていた時は、利用者に本人だけにわかるよう言葉かけを行ったりして工夫している。また、利用者が着替えをしている最中に職員が入室しないよう配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の場面で、当事業所は事前にメニューが決まっているわけではないので、入居者さんに食べたいものを聞き可能な限りこたえられるようにしている。自己決定する場面でなかなか希望が言えない場合は選択肢を狭めどっちにするか？を考えてもらう場合もある。先日は肉が好きな入居者の誕生日の日に牛丼を提供した。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出かけることが好きな人、家の中でゆっくりしたい人などその人に合わせた暮らしを提供している。ふらっと外を眺めている場合は外出の声掛けをしている。定期的な行事以外には特に予定もなく、その日その方に合わせて職員が動いている。気晴らしにドライブに出かけることが多い。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は洋服、夜はパジャマのメリハリをつけ、毎日更衣してきれいな服装を心掛けている。洋服に関してもその日に何を着るか？本人に選んでもらっている。希望があれば美容室に通えない身体状況の方でも事業所にて白髪染めをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては食べたいものを聞いてメニューに取り入れることもある。準備の時は味付け、盛り付け、時には包丁を使ってもらって一緒に食事の準備をしている。片付けもお膳を運んでもらったり、食器ふきなど本人が出来る事を手伝ってもらっている。	敷地内で野菜を作っており、採れたタケノコ等の季節の食材も使用して調理している。利用者は、食器への盛り付けや自分の食事を刻んだりしている。利用者それぞれの好みに合わせて盛り付けの量を調整したり、利用者からの要望で牛丼をお持ち帰りしたりして食事を楽しめるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人あった量を食べてもらっている。水分食事に関しては摂取量を表で管理している。体重測定も月1回実施。摂取量の変化のある場合などは体重測定の頻度を多くしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には起床時、毎食後の口腔ケアの支援を行っている。状態の悪い人に関してはこまめに口腔ケアをしている。月に2回居宅療養管理指導で歯科医師衛生士が来園し、口腔内の管理をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で管理しているため、個人の排泄パターンを職員が把握したうえでトイレの声掛けをして失敗を減らしている。自宅や他の他の事業所から入居される時リハビリパンツを使用していたら、数日様子を見て可能であれば布パンツと尿取りパットへ変更している。	排泄表を用いて、利用者の様子を見て支援を行っている。できるだけ布パンツを利用できるようにと考え、リハビリパンツの利用は控えている。居室でポータブルトイレを利用される利用者には、利用者自身で無理なく排泄できるよう支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分制限のない人はなるべく多く飲んでもらう。また、歩いたり体操したり身体を動かす事で便秘予防している。下剤を使用している方も排便の様子を観察し先生と相談しながら薬の量を調整している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴剤を使って匂いや視覚でも楽しんでもらっている。業務的な入浴介助ではなくその人に合わせた入浴時間を提供している。デイをしている関係で毎日お風呂を沸かしているため、今日入りたいと入居者の方が希望すればすぐ対応できる。	入浴は毎日準備しており、入浴剤や季節の菖蒲やゆず等を使って楽しめるように工夫している。入浴中は世間話や家族の話などをして、利用者が会話も楽しめるように心がけている。入浴の声掛けは無理強いせず、入浴したくない利用者には時間を置いて再度声掛けしたり、その日は入浴しないようにしたりして利用者の気持ちを尊重している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせたタイミングで就寝支援をしている。遅くまで起きている方でもある程度の時間までは夜勤者と話をしたり夜勤者の仕事を一緒にしたりと過ごしてもらっている。寝れなかった翌日など居眠りがある場合は短時間しっかり寝てもらおうなどメリハリをつけている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理の元、内服前に職員2名で、薬ケースの上に貼っている薬の説明で確認し、間違いのないようにしている。居宅療養管理指導で定期的に薬剤師が来園し、入居者の情報を共有したり助言をもらったりしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活習慣やなじみの場所好きなことなど本人や家族から聞き取りをして、ドライブコースを決めたり、事業所で取り組めることは行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	目的もなく出かけたり事業所の買い物に付き添ってもらったり外出の機会を増やしている。地域の方や家族は今のコロナ禍で協力を得てない。	利用者全員が少しの時間でも外にいる時間を作るように工夫している。近所への散歩や、月1回の花見等のドライブの他に、買い出しや外食等と一緒に誘って外出している。また、ホームが実施している配食サービスの弁当を利用者と一緒に配達に行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にお金を持ち込むことは事業所の方針としてトラブル防止の為持っている人はいない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ない。コロナ禍で面会がなかなかできないが、家族とライングループを作り日常の様子を伝えたり、動画で家族あてにメッセージを送ったりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イスとテーブルの生活空間ではなく昔では当たり前だった畳（床）に座る事座ってゆっくり足を延ばすことでリラックスできている。排泄臭がある場合は換気や消臭剤ですぐに取り除くようにしている。	居間は、和室で中央には掘りごたつがあり、昔ながらの自宅にいるようなくつろげる雰囲気になっている。また、ソファも置いており、利用者に人気の場所となっている。居間の続き部屋からは桜の木なども見えて、季節の移り変わりも楽しめる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースである和室には、掘りごたつを設置してみんなでゆっくり過ごせる場になっている。足腰の弱い方もソファや椅子で過ごしてもらい、和室はみんなで集まれる場になっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに関しては本人家族に任せている。お孫さんの写真を飾ったりされる入居者もいる。入居前に生活されていた有料老人ホームで使い慣れたものを持ち込むケースもある。	利用者の家族の写真を飾ったり、自宅からタンスを持参して設置されている。居室には押入れがあり、タンスを置かず広く空間を使用している利用者もいる。テレビを観ることが好きな利用者は、夕食後に自室で好きな番組を観て過ごしているなど、居室での生活も尊重して支援している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ廊下浴室には手すりを設置。トイレや居室には入居者の目線に合わせた看板を設置している。和室は畳で立ったり座ったりがなかなか難しい状況であるが、独歩可能な方は自分なりに工夫され立ったり座ったりしている。職員は安全面に配慮した見守りをしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	☐	①ほぼ全ての利用者の
			☐	②利用者の2/3くらいの
			☐	③利用者の1/3くらいの
			☐	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	☐	①毎日ある
			☐	②数日に1回程度ある
			☐	③たまにある
			☐	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	☐	①ほぼ全ての利用者が
			☐	②利用者の2/3くらいが
			☐	③利用者の1/3くらいが
			☐	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	☐	①ほぼ全ての利用者が
			☐	②利用者の2/3くらいが
			☐	③利用者の1/3くらいが
			☐	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	☐	①ほぼ全ての利用者が
			☐	②利用者の2/3くらいが
			☐	③利用者の1/3くらいが
			☐	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	☐	①ほぼ全ての利用者が
			☐	②利用者の2/3くらいが
			☐	③利用者の1/3くらいが
			☐	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	☐	①ほぼ全ての利用者が
			☐	②利用者の2/3くらいが
			☐	③利用者の1/3くらいが
			☐	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		